

《調布市文化芸術の特徴といえるもの。いわゆる「**調布らしさ**」の例》

- 基本構想で掲げるまちの基本理念の一つである「**共生社会の充実※後述**」
- 文化芸術推進ビジョンに掲げる「**まちの多彩な文化資源※後述**」
- 豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言に基づく「**市の様々な文化芸術の推進**」
- 調布市若者の文化芸術活動及びスポーツ活動の応援に関する条例による「**若者の文化芸術活動の支援**」
- 「**駅前広場と隣接した文化施設（調布市グリーンホール）**」
- 文化資源を活かしたイベント
 「**調布国際音楽祭**」
 「**映画のまち調布 シネマフェスティバル**」
 「**調布彩咲祭（さいさいさい）**」



豊かな
芸術文化・スポーツ活動を
育むまちづくり宣言



調布国際音楽祭



映画のまち調布
シネマフェスティバル

《参考》調布市に住み続けたいと答えた人に聞いた調布のまちの魅力や個性・特色（令和6年度調布市民意識調査）

※全28項目中上位5位。複数回答可の設問のため、割合の合計は100パーセントになりません。

| | | |
|----|------------------|-------|
| 1位 | 都心への交通の便がよい | 76.8% |
| 2位 | 豊かな自然がある | 64.7% |
| 3位 | 日常の買い物が便利 | 54.6% |
| 4位 | 神代植物公園、野川公園などの公園 | 45.6% |
| 5位 | 深大寺地域の歴史・観光資源 | 36.1% |



※共生社会の充実にに向けた取組「パラハートちょうふ」

令和3年に開催された東京2020大会の大会ビジョンには「多様性と調和」という基本コンセプトが掲げられた。調布市は大会開催を契機として、共生社会の重要性をこれまで以上に発信するため、「パラハートちょうふ」のキャッチフレーズを掲げ、様々な分野で取組を展開している。キャッチフレーズには、「市内外の多くの方々が障害に対する理解を深め、一人一人が寄り添い、手を取り合って暮らせる共生社会を充実させたい」という思いが込められています。市は、この考え方を更に発展させ、すべての人が障害の有無、国籍、性別などによって分け隔てられることなく、一人一人の個性が尊重され暮らしやすいまちを目指している。

文化芸術分野においては、障害者が制作した作品に広く触れることができる機会の創出、誰でも文化芸術を鑑賞することができる環境整備の充実、誰でも文化芸術活動に参加できる体制の強化、障害者が文化芸術活動を実施する場合のサポート、交流の輪が広がる体験型事業の実施、障害者が創造した芸術的価値が高い作品等の評価や販売等に係る支援などを通して共生社会の充実に努めている。

※調布市の文化資源

《調布市文化芸術推進ビジョン 施策2-3 市ゆかりの文化人を生かした取組》

- 桐朋学園関係者・出身者やバッハ・コレギウムジャパンをはじめとした調布市に関わりのある音楽関係者・団体等との連携
- 調布市ゆかりの映像関連の企業やアーティストとの連携（調布市の映画撮影所やポストプロクを利用しているスタッフやキャストなど）
- せんがわ劇場が擁する若手舞台芸術家グループ「DEL（デル）」をはじめとする演劇関係のアーティストや団体等との連携
- 中川平一氏、つげ義春氏など調布市ゆかりの画家、彫刻家、写真家、漫画家などのアーティストとの連携
- 武者小路実篤、水木しげる氏など著名な文化人や近藤勇など歴史文化の人物に関わる功績の伝承・継承